

いつもお世話になっております。

先日旅動画を見ていましたら、2026年の国内旅行おすすめランキングTOP10が発信されており、「壱岐ノ島」が1位で紹介されていました。以前から私は一度行ってみたいと思っていた所でしたので、今年は行ってみたいと思っています。



5バリュアセット株式会社  
代表取締役 齊藤 彰一

山本周五郎の短編小説に「壱岐ノ島」があります。20年位前に私は山本周五郎の短編小説を耽読しておりまして、これも好きな作品の一つです。

江戸末期の農家の次男・吉蔵は農作業が性に合わず、学問で出世したいと思い、家を出ます。吉蔵の考えは自分の出世や家の損得だけで、島の歴史や島民の思いには全くの無関心だったのですが、母・お民の、無学だけれど強くて熱い言葉で改心する話です。

少し長いですが、最後の部分・お民の言葉です。

お民の声はぶるぶると震えた、、、お民の言葉はお民ひとりの言葉ではない、それはこの島の女性たち全部の叫びだ、寛仁3年の刀伊賊、文永、弘安の元寇によって、自分たちの生んだものを多く殺傷強掠された、この島の女性たちの地に伝わる魂の叫びだった、

「私達百姓はお国のためには米を作る、自分は稗粥（ひえがゆ）を食べても、お国のためには米を作る、いま眼の前の大麥に備えて、砲台の土を運ぶ者、鉄砲を射つ者、竹槍を持つ者こそこの国の米を食べるがいい、自分ひとりのことだけ考えるような者に遣る米は一粒もありません、、、この前は家から出て貰った、こんどはこの島から出て行っておくれ、吉蔵、、、壱岐にはもうお前のいる場所はないのだよ。」

先日、プルデンシャル生命の不祥事報道がありました。証券会社や銀行でも毎年金融不祥事が頻発しています。制度や罰則、管理の見直しも必要でしょうが、最も必要なことは、金融業界の人間一人ひとりが、自分のことだけを考える風潮や、自分以外のことに関心である風潮を変えることだと私は思っています。

営業ができる・できないにかかわらず、改心してもらうことは、本当に難しいものです。今の時代、生き方・考え方は「個人の自由」ですので、強制もできません。

自分勝手なFA（ファイナンシャルアドバイザー）がいたらお民に来てもらって、「金融業界から出て行っておくれ、、もうお前のいる場所はないのだよ」と熱く語ってもらえたらいいのになあと、この作品を読むたびに思います。

これからも5バリュアセットをよろしく願いいたします。

2026年2月16日